

## 起業を増やし、豊島区の活性化を目指す 起業を成功させるノウハウを 支援の専門家が公開討論

豊島区と日本政策金融公庫池袋支店の共催により、豊島区役所センタースクエアで「池袋創業支援フォーラム」が開かれた。人気の専門家が集結し、起業にまつわる最新の知見を共有した。

取材・文 ● 保田明恵 撮影 ● 編集部



1 左より中野さん、上野さん、湊さん。人気と実力を備えた起業支援のプロたちだ。2 第一部では、中野さんが関わった起業家4人も登壇し、貴重な体験談を披露した。3 起業支援サイト「DREAM GATE」で、相談件数7年連続人気ランキング1位を誇る中野さん。



### 政

府系金融機関である日本政策金融公庫池袋支店は、豊島区と連携し、同区の活性化に欠かせない起業支援に取り組んできた。その一環として2月5日に、豊島区との共催で「池袋創業支援フォーラム」を開催した。

「起業予定者や起業して間もない人に、専門家や体験者から悩みや苦勞を乗り越えるためのアドバイスを受け取ってもらい、さらには税理士や金融機関など、起業を支援する側のレベルアップにもつながりたい」と、同支店長の井原守茂さんはイベントの目的を話す。

第一部では、起業コンサルタントの中野裕哲さんが講演した。起業後、資金ショートなどで赤字となり、黒字に転換するまでの期間をデスバレーといい、そこを突破するための相談が多く寄せられるそうだ。中野さんが相談に乗った起業家4名も登壇し、デスバレーの経験談が披露された。

第二部では中野さんに加え、起業について多くの著書をもつ中小企業診断士の上野光夫さんと、東京税理士会中小企業支援対策副委員長を務める税理士の湊義和さんそしてファシリテーターの井原さんの4人による「創業パネルディ



4 ファシリテーターは日本公庫池袋支店長の井原さん。5 起業支援をする側とされる側、多くの参加者があった。

スカッション」が行われた。起業をめぐるテーマごとに、日本政策金融公庫の調査結果を示しながら、考察や意見が述べられた。

昨今、副業を認める企業が増えているが、本業を続けながら起業する「副業起業」について湊さんは、次のように指摘した。

「例えば日中、店舗を回って営業する仕事なら、副業では代わりに動いてくれる人を確保できないと行き詰まる。中途半端になるのが一番危険」

後継者不足などから廃業に至った事業者と、起業者を支援機関がマッチングし、事業承継に導く試みも全国的に注目されている。上野さんは、造り酒屋を承継した事例を挙げ、「造り酒屋を新しくつくるのは無理だが、買い取ること、起業できる」と、起業者側のメリットを語った。

閉会後は、後援に名を連ねた地域の信用金庫や、同支店と地域創生分野で連携する大正大学などがブースを設けての名刺交換会に移行し、支援機関や参加者の交流が図られた。本フォーラムは起業に関わる人々にとって、多くの学びと出会いが得られた場となったことだろう。